

## 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 第1章 環境に配慮した生活

### 1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望 (P309)

値段が多少高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」(25.7%)は2割台であった。

一方、「購入したいと思わない」(29.3%)は約3割であった。

### 2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望 (P311)

多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」(52.3%)が5割台となった。

一方、「購入したいと思わない」(15.8%)は1割台であった。

### 3 環境問題の情報収集の有無 (P313)

興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」(20.6%)は約2割であった。

一方、「収集していない」(50.7%)は約5割となり、「収集していない」が「収集している」を30.1ポイント大きく上回った。

### 4 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望 (P315)

NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したいと思う、すでに参加している」(11.0%)が約1割であった。

一方、「参加したいと思わない」(40.5%)は約4割であった。

### 5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献 (P317)

企業等の持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思うか尋ねたところ、「生かされていると思う」(45.8%)が4割台であった。

一方、「生かされていると思わない」(20.5%)は約2割であった。

## 第2章 生物多様性

### 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (P319)

「生物多様性」の言葉の意味を知っていたか尋ねたところ、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」(38.5%)が約4割で最も多く、次いで「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(32.4%)が3割台であった。

## 2 多種多様な生物が生息できる環境の保全への意識 (P321)

多種多様な生物が生息できる環境の保全について、どのように考えるか尋ねたところ、「人間の生活が制約されない程度に、生息環境の保全を進める」(48.7%)が約5割で最も多く、次いで「人間の生活がある程度制約されても、生息環境の保全を優先する」(39.5%)が4割であった。

## 3 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要だと思うもの (P323)

神奈川県における生物多様性の保全について、どの取組が重要だと思うかを複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」(85.2%)が8割台で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組」(60.9%)が約6割となった。

## 4 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組 (P325)

生物多様性を知る、または行動する機会として、どの取組に参加したいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」(41.5%)と「自然や生きものとふれあう自然観察会」(39.2%)がともに約4割であった。

# 第3章 3R

## 1 日常生活における3Rの意識 (P327)

日常生活で、3Rを意識して行動しているか尋ねたところ、「常に意識している」(32.9%)と「少し意識している」(53.3%)を合わせた《意識している》(86.2%)は8割台となった。

一方、「まったく意識していない」(1.2%)と「あまり意識していない」(11.3%)を合わせた《意識していない》(12.6%)は1割台であった。

## 2 実践している3R行動 (P329)

3Rの行動を提示して、行っていることはあるかを複数回答で尋ねたところ、「家庭で出たごみは市町村が定める種類ごとに分別して、定められた場所に出している」(91.8%)が約9割で最も多く、「詰め替え用商品を選んでいる」(75.6%)と「家電製品4品目(テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機)と自動車を廃棄する際は販売店等に引き渡している」(68.0%)が続いた。

## 3 大規模な災害で発生したごみの分別排出 (P331)

大規模な地震や洪水等に伴って発生したごみ(壊れたり濡れたりした家具・家電、割れた食器等)を分別排出することについてどう思うか尋ねたところ、「災害時に手間や時間をかけて分別することは現実的ではなく、出来る範囲で分別すれば十分だと思う」(50.8%)が約5割で最も多く、次いで「手間や時間がかかったとしても、分別はきっちり行うべきだと思う」(24.1%)が2割台であった。

## 第4章 神奈川県農業

### 1 地元産の農産物の購入意向 (P333)

農産物を購入する際に、地元産のものを優先したいと思うか尋ねたところ、「優先したいと思う」(64.2%)が6割台となった。

一方、「優先したいと思わない」(16.8%)は1割台であった。

### 2 将来の神奈川県の農業に対する考え (P335)

将来の神奈川県の農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」(76.1%)が7割台で最も多かった。

### 3 神奈川県の農業に期待する役割 (P337)

神奈川県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」(57.4%)が5割台で最も多く、次いで「食料の安定供給」(16.8%)が1割台であった。

### 4 県内の農地の保全に対する考え (P339)

県内にある農地の保全について、どのように思うか尋ねたところ、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全するべき」(35.9%)が最も多く、次いで「どちらかといえば農地を保全するほうがのぞましい」(29.5%)が多かった。

## 第5章 食・食育

### 1 食育への関心 (P341)

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(43.0%)と「どちらかといえば関心がある」(39.6%)を合わせた《関心がある》(82.6%)は8割台となった。

一方、「関心がない」(2.8%)と「どちらかといえば関心がない」(9.3%)を合わせた《関心がない》(12.1%)は1割台であった。

### 2 健康的な食事内容への意識 (P343)

毎日の食生活で、健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」(77.6%)が7割台となった。

一方、「心がけていない」(11.5%)は約1割であった。

### 3 就寝前の食事の事情 (P345)

就寝前2時間以内に食事や夜食を食べる事があるか尋ねたところ、「ほとんど食べない」(49.3%)が約5割で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」(18.2%)が約2割であった。

#### 4 朝食を同居の人ととる頻度 (P347)

朝食を同居の人ととる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」(42.3%)が4割台で最も多く、次いで「ほとんど食べない」(23.8%)が2割台であった。

#### 5 夕食を同居の人ととる頻度 (P349)

夕食を同居の人ととる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」(52.3%)が5割台で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」(13.9%)が1割台であった。

#### 6 食べ方への関心 (P351)

噛み方、味わい方といった食べ方に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(32.0%)と「どちらかといえば関心がある」(40.8%)を合わせた《関心がある》(72.8%)は7割台となった。

一方、「関心がない」(5.1%)と「どちらかといえば関心がない」(17.5%)を合わせた《関心がない》(22.6%)は2割台であった。

#### 7 歯と口の健康を保つために気をつけていること (P353)

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」(94.8%)が9割台で最も多く、次いで「かかりつけ歯科医を決めている」(50.4%)が5割であった。

#### 8 健康的な生活の実践 (P355)

健康的な生活を送るために①適切な食事、②定期的な運動、③週に複数回の体重計測のいずれかを実践しているか尋ねたところ、「実践しており、半年以上継続している」(45.0%)が4割台で最も多く、次いで「時々実践しているが、継続的ではない」(34.9%)が3割台であった。

#### 9 食事のマナーや作法 (P357)

自分は食事のマナーや作法(いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など)を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」(20.3%)と「ある程度できていると思う」(57.0%)を合わせた《できていると思う》(77.4%)は7割台となった。

一方、「まったくできていないと思う」(2.2%)と「あまりできていないと思う」(17.9%)を合わせた《できていないと思う》(20.1%)は2割であった。

## 10 食品の安全性に関する知識 (P359)

自分に食品の安全性に関する知識（どのような食品を選んだほうがよいか、どのような調理が必要かなど）があると思うか尋ねたところ、「十分にあると思う」（14.2%）と「ある程度あると思う」（55.1%）を合わせた《あると思う》（69.3%）は約7割となった。

一方、「まったくないと思う」（3.5%）と「あまりないと思う」（24.0%）を合わせた《ないと思う》（27.5%）は2割台であった。

## 11 食べ物を無駄にしないように気をつけているか (P361)

食べ物を無駄にしないように気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」（90.0%）が9割と多かった。

一方、「気をつけていない」（3.8%）は1割に満たなかった。

## 12 農林水産業の作業体験 (P363)

職業として農林水産業に従事していない人に、農林水産業の作業などを体験したことがあるか尋ねたところ、「ある」（58.7%）が約6割となった。

一方、「ない」（29.4%）は約3割であった。

## 13 農林水産業を体験することへの関心 (P365)

職業として農林水産業に従事していない人に、農林水産業を体験することに関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（24.2%）と「どちらかといえば関心がある」（32.6%）を合わせた《関心がある》（56.8%）は5割台となった。

一方、「関心がない」（8.1%）と「どちらかといえば関心がない」（20.1%）を合わせた《関心がない》（28.3%）は約3割であった。

# 第6章 ヘルスケアICTの取組

## 1 自身の健康への関心 (P367)

「ヘルスケアICT」の取組みについて説明した上で、自分自身の健康について関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（68.7%）と「どちらかといえば関心がある」（25.3%）を合わせた《関心がある》（94.0%）は9割台と多かった。

## 2 自身以外の誰かの健康への関心 (P369)

自分自身の健康よりも、誰かの健康について強い関心を持っているか複数回答で尋ねたところ、「配偶者（夫または妻）」（56.3%）と「子供」（53.5%）がともに5割台と多かった。

### 3 健康の維持・改善に向けた具体的な行動 (P371)

運動・食生活の改善など健康の維持・改善に向けて何か具体的な行動をしているか尋ねたところ、「健康に気をつけ、少しずつ行動を変えている」(35.6%)が3割台で最も多く、次いで「特に何かやっているわけではないが、行動してみたいと考えている」(30.6%)が約3割であった。

### 4 「マイME-BYOカルテ」の認知度 (P373)

神奈川県が公開している、パソコンやスマートフォンで自分自身の健康情報を閲覧・管理できるアプリケーション「マイME-BYOカルテ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(91.9%)が約9割と多かった。

### 5 健康管理アプリの利用希望 (P375)

神奈川県が公開している、パソコンやスマートフォンで自分自身の健康情報を閲覧・管理できるアプリケーションを利用してみたいか尋ねたところ、「既に利用している」(4.3%)と「利用してみたいと思う」(39.2%)を合わせた《利用している、してみたいと思う》(43.5%)が4割台であった。

一方、「利用していたが今は使っていない」(5.3%)と「利用しようとは思わない」(49.1%)を合わせた《利用していない、しようとは思わない》(54.4%)は5割台となった。

### 6 見える化・データ化してほしい健康情報 (P377)

自分の健康情報が「見える化」・「データ化」できるとしたらどのような項目がよいと思うか尋ねたところ、「体重・体脂肪率」(54.6%)と「睡眠の質」(51.4%)がともに5割を超えて多かった。

### 7 健康の維持・改善に役立つサービス (P379)

どのようなサービスがあれば、健康の維持・改善に向けた行動ができると思うか尋ねたところ、「自分の心身の状態に合わせて適切なアドバイスをしてくれるサービス」(58.3%)が約6割で最も多く、次いで「身体の状態が分かる指標が示され、行動によってその指標が変化するサービス」(42.5%)が4割台、「健康の維持・改善行動によって割引が受けられるなどの金銭的なサービス」(33.4%)が3割台で続いた。



## 第7章 障がいや障がいのある人への理解

### 1 障害者差別解消法の認知度 (P381)

平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」(75.7%)は7割台と多く、「知っている」(22.8%)は2割台であった。

### 2 障がい者への差別・偏見の有無 (P383)

障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(57.1%)と「少しはあると思う」(29.2%)を合わせた《あると思う》(86.4%)が8割台となった。

一方、「ないと思う」(3.0%)と「あまりないと思う」(6.4%)を合わせた《ないと思う》(9.4%)は約1割であった。

### 3 障がい者に配慮した行動をとる人 (P385)

5年前と比べて、障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(8.8%)と「ある程度増えたと思う」(35.0%)を合わせた《増えたと思う》(43.9%)は4割台であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(6.9%)と「あまり増えていないと思う」(22.5%)を合わせた《増えていないと思う》(29.4%)は約3割であった。

### 4 オストメイトの認知度 (P387)

オストメイトという言葉を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」(57.7%)が5割台で最も多く、次いで「知っている」(27.3%)が2割台であった。

### 5 ストーマ袋の効果の認知度 (P389)

オストメイトの方がストーマ袋（排泄物を受ける袋）を適切に装着していれば、入浴、運動、仕事などの日常生活を健常者と変わりなく送ることができることを知っているか尋ねたところ、「知っている」(35.6%)が3割台であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」(62.3%)は6割台となった。

### 6 オストメイトの方の公衆浴場利用への抵抗感 (P391)

オストメイトの方が公衆浴場を利用することに抵抗感があるか尋ねたところ、「抵抗感がある」(7.6%)と「どちらかといえば抵抗感がある」(27.1%)を合わせた《抵抗感がある》(34.7%)は3割台であった。

一方、「抵抗感はない」(15.2%)と「どちらかといえば抵抗感はない」(21.2%)を合わせた《抵抗感はない》(36.5%)も3割台であった。

## 7 ヘルプマークの認知度 (P393)

ヘルプマークの説明を提示し、ヘルプマークを知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(73.0%)が7割台と多かった。

一方、「知っている」(14.4%)は1割台であった。また、「意味は知らないが見聞きしたことはある」(10.5%)は約1割であった。

## 第8章 「手話」への興味・関心

### 1 手話への関心 (P395)

「手話普及推進」の取組について説明した上で、手話に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(13.6%)と「どちらかといえば関心がある」(31.5%)を合わせた《関心がある》(45.1%)は4割台であった。

一方、「関心がない」(10.7%)と「どちらかといえば関心がない」(30.2%)を合わせた《関心がない》(40.9%)は約4割であった。

### 2 手話に関心を持ったきっかけ (P397)

「1 手話への関心」で、「手話に関心がある」と回答した人に、手話に関心を持ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「テレビ番組」(68.1%)が約7割で最も多く、次いで「手話サークル等」(10.1%)が1割であった。

### 3 手話を学んだ経験 (P399)

手話を学んだことがあるか尋ねたところ、「学んだことはない」(81.8%)が約8割と多かった。一方、「学んだことがある、現在学んでいる」(14.7%)は1割台であった。

### 4 手話の習熟程度 (P401)

「3 手話を学んだ経験」で、「学んだことがある、現在学んでいる」と回答した人に、手話がどの程度できるか尋ねたところ、「おはようなどのあいさつ程度」(54.9%)が5割台で最も多く、次いで「まったくできない」(30.1%)が3割であった。

### 5 手話の学習意識 (P403)

手話を学びたいと思うか尋ねたところ、「学びたい、すでに学んでいる」(28.8%)が約3割であった。

一方、「学びたいとは思わない」(31.7%)も約3割であった。

## 6 希望する手話の学習方法 (P405)

「5 手話の学習意識」で、「学びたい、すでに学んでいる」と答えた人に、手話を学ぶ場合に何で学びたいかを尋ねたところ、「手話講習会」(52.9%)が5割台と最も多く、「テレビ番組」(40.5%)が約4割、「手話サークル等」(31.5%)が約3割で続いた。

## 7 希望する手話の習熟程度 (P407)

「5 手話の学習意識」で、「学びたい、すでに学んでいる」と答えた人に、どの程度できるようにしたいかを尋ねたところ、「簡単な日常会話レベル」(42.1%)が4割台で最も多く、次いで「単語を並べて意思疎通がなんとかできるレベル」(29.9%)が3割であった。

# 第9章 犯罪被害者等の支援

## 1 「かながわ犯罪被害者サポートステーション」の認知度 (P409)

「かながわ犯罪被害者サポートステーション」について説明した上で、この施設を知っていたか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(85.6%)が8割台となった。また、「名前は知っていたが、事業の内容は知らなかった」(9.4%)は約1割であった。

## 2 犯罪被害者等が抱えている問題についての認識 (P411)

犯罪被害者等が様々な問題を抱えていることを説明した上で、家族や友人などの身近な人たちに、犯罪被害者等が抱えている問題が認識されていると思うか尋ねたところ、「十分に認識されている」(2.1%)と「ある程度認識されている」(16.5%)を合わせた《認識されている》(18.7%)は約2割であった。

一方、「まったく認識されていない」(9.1%)と「あまり認識されていない」(37.1%)を合わせた《認識されていない》(46.2%)は4割台で、《認識されていない》が《認識されている》を27.5ポイント大きく上回った。

## 3 「かながわ性犯罪・性暴力ホットライン」の認知度 (P413)

「かながわ性犯罪・性暴力ホットライン」の役割や設置時期を説明し、「かながわ性犯罪・性暴力ホットライン」を知っていたか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(74.7%)が7割台で最も多く、次いで「名前は知っていたが、事業の内容は知らなかった」(13.7%)が1割台であった。

## 4 「かながわ性犯罪・性暴力ホットライン」の効果的な周知方法 (P415)

「かながわ性犯罪・性暴力ホットライン」を知ってもらうために、どのような方法が効果的だと思うかを複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「テレビ」(45.0%)が4割台で最も多く、「県のたより」(30.1%)、「電車の中吊り広告」(28.9%)が続いた。

## 第10章 男女共同参画社会

### 1 男女の地位の平等感 (P417)

7つの分野を提示して、男女の地位が平等になっていると思うか尋ねたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性の方が優遇されている》は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」(70.8%)と「社会全体で」(69.1%)がともに約7割で多かった。

一方、「平等」は、「学校教育の場で」(55.8%)が5割台で最も多く、次いで「地域活動で(自治会・町内会、PTA、ボランティアなど)」(44.9%)が4割台であった。

### 2 男女の役割、結婚観等に関する意識 (P426)

男女の役割や結婚観に関する考え方を5項目を提示して、それぞれどのように思うか尋ねた。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》は、「結婚したら子どもをもつ方がよい」(63.5%)が最も多く、次いで「一生独身でくらすより結婚した方がよい」(59.9%)が多かった。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《そう思わない》は、「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」(36.2%)が3割台で最も多かった。

### 3 夫婦間の行為についての暴力としての認識 (P433)

5項目の行為を提示して、それが夫婦間で行われた場合、暴力だと思うか尋ねたところ、

「暴力にあたる」は、「平手で打つ」(86.7%)が8割台で最も多く、次いで「生活費を渡さない」(68.7%)、「性的な行為を強要する」(67.8%)が続いた。

一方、「暴力にはあたらない」は、「交友関係や電話を細かく監視する」(14.2%)が1割台で最も多かった。

### 4 家庭における役割分担 (P438)

配偶者のいる人のみを対象に、「家事」、「育児」、「ご自身の親(実親・義理親)の介護」を主に誰がしているか尋ねた。

「家事」は、「ほとんど妻」(46.1%)と「どちらかというとき妻」(26.0%)を合わせた《妻》(72.1%)が7割台と多かった。

また、「育児」は、「ほとんど子の母親」(31.7%)と「どちらかというとき子の母親」(22.6%)を合わせた《母親》(54.4%)が5割台となった。

「ご自身の親(実親・義理親)の介護」は、「ほとんど妻」(13.1%)と「どちらかというとき妻」(8.3%)を合わせた《妻》(21.5%)が約2割であった。

## 5 男性が家事や育児などに関わるために必要なこと (P443)

男性が家事、育児、介護や地域活動に関わっていけるようになるためには、どのようなことが必要だと思うか複数回答（3つまで）で尋ねたところ、「上司・同僚の理解があること」（54.5%）が5割台で最も多く、「休暇が取りやすくなること」（44.9%）が4割台、「家事等は女性が行うべき」という意識が変わること」（33.2%）と「職場の人員配置に余裕ができること」（31.0%）が3割を超えて続いた。

## 6 男女共同参画に関する言葉の認知度 (P445)

男女共同参画について、今回の調査以前に見たり聞いたりしたことがある言葉を複数回答で尋ねたところ、「DV（配偶者からの暴力）」（85.8%）が8割台で最も多く、「男女共同参画社会」（57.5%）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（50.7%）、「性的マイノリティ（LGBT）」（49.6%）が続いた。

## 7 女性が職業を持つことに対する考え (P447)

女性が職業を持つことについてどう思うか尋ねたところ、「ずっと職業を続ける方がよい」（30.6%）が約3割で最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったらパートタイムで職業をもつ方がよい」（21.8%）が約2割であった。

## 8 働く女性の状況 (P449)

現在、自分や自分の周りで、働く女性が男性に比べてどのような状況にあると思うか複数回答で尋ねたところ、「結婚や妊娠、出産をすると勤め続けにくい雰囲気がある」（43.6%）が4割台で最も多く、次いで「家庭との両立のため正社員以外（非正規雇用）を選んでいる」（37.9%）が3割台であった。

## 9 女性が活躍するために必要な取組や支援 (P451)

女性が活躍するためには、職場や社会、家庭等において、どのような取組や支援が必要だと思うか複数回答で尋ねたところ、「職場の上司・同僚が、仕事と家事・育児、介護等の両立について理解があること」（72.5%）が最も多く、次いで「家事・育児、介護等との両立についての職場の支援制度が整っていること」（68.5%）が多かった。また、「フレックスタイムや在宅勤務など、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の導入が図られていること」（53.9%）が5割台で最も多かった。

## 10 男女共同参画社会実現のために力を入れるべき施策 (P453)

女性も男性もそれぞれの個性と能力を發揮できる社会の実現を目指して、県では、今後どのようなことに力を入れていくべきか複数回答で尋ねたところ、「保育・介護の施設やサービスの充実」(70.7%)が約7割で最も多く、「男女共に働き方の見直し(長時間労働の削減や、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現など)」(61.9%)が約6割、「出産、育児や介護等により離職した女性に対する再就職等の支援」(55.2%)が5割台で続いた。

## 第11章 県民の声・相談室

### 1 県に対する問い合わせ等の連絡先及び連絡方法 (P455)

「県民の声・相談室」について説明した上で、県の仕事について、問い合わせをしたいときや要望・提案があるとき、どこにどのように連絡すると思うか尋ねたところ、「各地域の県政総合センター」(34.0%)が3割台で最も多く、次いで「県庁(横浜の本庁)」(24.3%)が2割台であった。一方、「わからない」(25.7%)も2割台であった。

「わからない」「無回答」以外の人に、連絡方法を尋ねたところ、「電話する」(73.9%)が7割台と多かった。

### 2 「県民の声・相談室」で実施してほしいと思う相談事業 (P458)

「県民の声・相談室」の内容を説明した上で、「県民の声・相談室」における相談事業として、実施してほしいと思うものを複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「弁護士相談」(42.3%)が4割台で最も多く、「税理士相談」(20.5%)と「交通事故相談」(19.1%)が約2割で続いた。

### 3 法律に関する困りごとの相談先 (P460)

法律に関する困りごとについて相談したいとき、まずどこに相談しようと思うか尋ねたところ、「市町村の法律相談窓口」(45.3%)が4割台で最も多く、「弁護士事務所」(11.0%)と「神奈川県弁護士会の法律相談センター」(10.0%)が1割以上で続いた。